

平成 27 年度 検証結果報告書（九州保健福祉大学）

動物実験に関する検証結果報告書

（九州保健福祉大学）

動物実験に関する外部検証事業

（国立大学法人動物実験施設協議会・公私立大学実験動物施設協議会）

平成 28 年 3 月

平成 28 年 3 月 29 日

九州保健福祉大学
学長 迫田 隅男 殿

貴機関における動物実験の実施体制に関して、提出された自己点検・評価結果報告書
に対する検証結果を通知します。

国立大学法人動物実験施設協議会・公立大学実験動物施設協議会
動物実験に関する外部検証事業
検証委員会 委員長



対象機関：九州保健福祉大学
申請年月日：平成 27 年 7 月 30 日
訪問調査年月日：平成 27 年 12 月 2 日
調査員：八神 健一（筑波大学）
森本 正敏（熊本保健科学大学）

検証の総評

九州保健福祉大学は、社会福祉学部、保健科学部、薬学部、生命医科学部、およびこれらに關係する大学院を有する医療・保健・福祉系の大学である。動物実験は保健科学部および薬学部で実施されており、今後は、27 年度に設置された生命医科学部でも実施される予定である。

動物実験の実施体制は基本指針に適合し、実験動物の飼養保管は飼養保管基準を遵守して概ね適正に行われている。動物実験等に関する機関内規程として「九州保健福祉大学動物実験に関する規則」が制定され、平成 26 年度には 42 件の動物実験計画が動物実験委員会による審査、学長の承認を経て適正に実施され、3 か所の実験動物飼養保管施設では実験動物管理者の下で適正に飼養保管が行われていた。

しかし、感染動物実験や有害化学物質を用いる動物実験等、特に安全管理上の注意を要する実験を対象とする規程等が制定されていないため、今後も該当する動物実験が予定される場合は、規程等の整備が必要である。また、教育訓練について、その内

容に動物実験や飼養保管の基本的な手順、人獣共通感染症に関する事項等が含まれておらず、内容の充実が望まれる。実験動物管理者や動物実験委員会委員に対して、動物実験に関する規制の最新動向について、外部専門家による教育の機会も検討されたい。

検証結果

I. 規程及び体制等の整備状況

1. 機関内規程

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合する機関内規程が定められている。
- 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 機関内規程が定められていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

機関内規程として「九州保健福祉大学動物実験に関する規則」が定められ、その内容は文部科学省の基本指針および環境省の実験動物飼養保管基準に則した内容である。よって、自己点検・評価の結果は、妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針に適合する機関内規程が定められている。
- 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 機関内規程が定められていない。

4) 改善に向けた意見

機関の長（学長）の責務が規則上に明記されていないため、今後の規則見直しの際に追加することを検討されたい。

2. 動物実験委員会

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。
- 動物実験委員会は置かれているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験委員会は置かれていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

基本指針に則した動物実験委員会が設置され、基本指針に規定された 3 種の委員が含まれている。よって、自己点検・評価の結果は、妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。
- 動物実験委員会は置かれているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験委員会は置かれていない。

4) 改善に向けた意見

特になし。

3. 動物実験の実施体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。
- 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験の実施体制が定められていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

動物実験計画の立案、審査、承認等、基本指針に則した動物実験の実施体制が整備され、動物実験計画書等の様式が定められている。よって、自己点検・評価の結果は、妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。
- 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験の実施体制が定められていない。

4) 改善に向けた意見

特になし。

4. 安全管理を要する動物実験の実施体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- 該当する動物実験の実施体制が定められている。
- 該当する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 該当する動物実験の実施体制が定められていない。
- 該当する動物実験は、行われていない。

2) 自己点検・評価の妥当性

遺伝子組換え実験に関する安全管理規則が整備されている。感染動物実験（BSL2）や有害化学物質（重金属等）の投与動物実験が行われているが、これらの実験の安全管理に関する規則の制定、委員会の設置がされていない。感染動物実験については、薬学部実験動物センターの規則で利用方法を定めている。よって、「該当する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。」とする。

3) 検証の結果

- 該当する動物実験の実施体制が定められている。
- 該当する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 該当する動物実験の実施体制が定められていない。

該当する動物実験は、行われていない。

4) 改善に向けた意見

病原微生物や有害化学物質の取扱い等を定めた安全管理規則を制定し、動物実験計画の審査にあたって、安全管理上の視点でも審査することを検討されたい。

5. 実験動物の飼養保管の体制

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

3 か所の飼養保管施設でげっ歯類、ウサギ、イヌ等が飼育され、各飼養保管施設には実験動物管理者が置かれ飼養保管手順書が整備されており、適正な飼養保管の体制である。よって、自己点検・評価の結果は、妥当である。

3) 検証の結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

飼養保管手順書等に、動物の逸走時の措置、地震や火災等の緊急時の対応計画を追加するよう検討されたい。

6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

意見

特になし。

Ⅱ. 実施状況

1. 動物実験委員会

1) 機関による自己点検・評価結果
<input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に機能している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性
動物実験委員会は、動物実験計画の審査を行うとともに、機関内規程で定められた教育訓練や自己点検・評価を実施しており、委員会の議事録も保存されている。よって、自己点検・評価の結果は、妥当である。
3) 検証の結果
<input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に機能している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
4) 改善に向けた意見
飼養保管施設の状況を定期的に視察することを検討されたい。

2. 動物実験の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果
<input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性
平成 26 年度に 42 件の動物実験が 3Rs の理念を遵守し、基本指針や機関内規程にしたがって適正に実施されている。すべての動物実験について動物実験終了報告書が提出され、特段の問題も生じていない。よって、自己点検・評価の結果は、妥当である。
3) 検証の結果
<input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
4) 改善に向けた意見
特になし。

3. 安全管理を要する動物実験の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果
<input checked="" type="checkbox"/> 該当する動物実験が適正に実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。 <input type="checkbox"/> 該当する動物実験は行われていない
2) 自己点検・評価の妥当性
平成 26 年度に遺伝子組換え動物を用いる実験は行われていない。感染動物実験、有害化学物質等の投与動物実験が行われているが、安全管理上の問題は生じていない。動物実験委員会の委員 2 名が遺伝子組換え安全管理委員会の委員を兼務し、双方の委員会の情報共有を図っている。よって、自己点検・評価の結果は、妥当である。
3) 検証の結果
<input checked="" type="checkbox"/> 該当する動物実験が適正に実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。 <input type="checkbox"/> 該当する動物実験は行われていない
4) 改善に向けた意見
特になし。

4. 実験動物の飼養保管状況

1) 機関による自己点検・評価結果
<input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検・評価の妥当性
実験動物の飼養保管は、飼養保管手順書にしたがい動物実験実施者である教員およびその指導下で学生が適正に実施し、作業日誌等で実施状況を確認している。しかし、飼養保管手順書には動物の搬入や検疫、給餌・給水、環境条件等の具体的事項が明文化されておらず、口頭で指導、周知されている。また、微生物モニタリングは実施されていない。よって、「概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。」とする。
3) 検証の結果
<input type="checkbox"/> 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。

多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

飼養保管手順書の内容をより具体的な記述に修正し、手順書による飼養者（学生）への教育、指導をいっそう徹底されたい。また、マウスおよびラットで継続的に繁殖をする場合、あるいは年間を通じて飼養保管する場合は、微生物モニタリングを実施することが望ましい。

5. 施設等の維持管理の状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

3 か所の飼養保管施設はいずれも小規模であり、施設・設備の老朽化等は見受けられない。しかし、一部の飼養保管施設で臭気が強く、空調設備の保守点検等の状況も確認できなかった。また、動物実験委員会による飼養保管施設の定期的な視察等も行われておらず、施設の現状が十分には把握されていない。よって、「概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。」とする。

3) 検証の結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

臭気の強い施設における空調設備の保守、点検状況の再確認、必要な措置の実施を検討されたい。また、動物実験委員会により飼養保管施設を定期的に視察することが望ましい。

6. 教育訓練の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

新任教職員を対象として、基本指針や実験動物飼養保管基準、機関内規程等について教育訓練を実施し、平成 26 年度は 7 名が受講している。しかし、その内容には人獣共通感染症に関する事項等が含まれていない。また、動物実験や飼養保管に関する基本的な手順等の教育は飼養保管施

設ごとに行い、学生に対する教育は正規の授業科目の中で行うとの説明があったが、その内容は確認できなかった。よって、「概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。」とする。

3) 検証の結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

人獣共通感染症等、安全管理に関する内容を充実されたい。また、動物実験や実験動物の飼養保管の基本的な手順等を飼養保管施設ごとに教育する場合はその内容や実施記録を保存することが望ましい。実験動物管理者や動物実験委員会委員に対して、動物実験等に関する規制の最新動向等について、外部専門家等による教育の機会も検討されたい。

7. 自己点検・評価、情報公開

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

基本指針への適合性や飼養保管基準の遵守状況について、動物実験委員会が自己点検・評価を実施している。また、動物実験の実施状況や実験動物の飼養保管状況等について、情報公開も実施されている。しかし、自己点検・評価結果や施設に関する情報等が公表されていない。よって、「概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。」とする。

3) 検証の結果

- 基本指針に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

4) 改善に向けた意見

情報公開項目に関して、「動物実験に関する情報公開に関する取組について（国立大学法人動物実験施設協議会・公私立大学実験動物施設協議会）」に基づき、外部検証の結果と併せて公開されたい。

8. その他

（動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果）

意見

薬学部動物生命薬学科では、動物看護師の養成を教育目標のひとつとしているため、イヌ、ウサギ、デグー等が飼育されている。実験的処置は稀であり、傷害や疾病等に対して獣医師である教員が対応している。